

## 1920～30年代における日本の『国際評論』：米田實の言説を中心として

伊藤信哉（神田外語大学非常勤講師）

### 問題設定

◇「日本社会の国際化」はいつ始まったのか？

◇海外情報の伝達手段（媒体）の発展と変遷

◇海外情報が社会にもたらすもの

### 1. 国際報道システムの整備と「国際評論」の出現

◇変化の時期：19世紀末～1920年代

◇変化の背景：日清・日露戦争と日韓併合、第1次世界大戦など

◇海外情報の2つの形式：「国際報道」と「国際評論」

◇国際報道システムの整備：新聞社における「外報部」設置

東京朝日新聞：1911年（明治44年）に外報部を新設

国際通信社の創設：1914年（渋沢栄一らが発起人・外務省後援）

◇専門雑誌の創刊：国際評論の場の提供

『外交時報』：1898年（明治31年）

『国際知識』1920年（大正8年）

### 2. 「国際問題評論家」の登場

◇主な出自

- ・外報関係のジャーナリスト：米田實・清沢湧
- ・国際法・外交史の研究者：有賀長雄・末広重雄
- ・元外交官：本多熊太郎（1926年駐独大使を最後に退官）

◇活動の形態

- ・雑誌や新聞への寄稿、講演活動などが中心
- ・専門者は多くない…分野／生計の両面において

◇政治的・思想的立場

- ・国際協調を唱えた者ばかりではない

### 3. 米田實—その言説の特徴—

◇米田實（まいだみのる：1878-1948）を取り上げる理由

- ・東京朝日新聞の初代外報部長  
→四半世紀にわたって同社外報部門の最高責任者の地位にあった人物
- ・活躍した時期の長さ／論文の数／取り上げる対象の幅広さ
- ・当時における社会的評価／世論に及ぼした影響

◇米田の経歴

- 1896年 勝海舟の援助によってアメリカ西海岸に渡航  
オレゴン大学・アイオワ大学などで外交史・国際法を修める  
現地の邦字紙『日米』の創刊メンバー。同紙編集長を務める
- 1907年 帰国
- 1908年 東京朝日新聞社に入社
- 1911年 同社の初代外報部長となる（～1923年）
- 1915年 ロンドン特派員（～1916年）
- 1920年 明治大学教授（外交史担当）（～1948年）
- 1922年 法学博士
- 1922年 初代論説委員長
- 1926年 国際法学会評議員
- 1933年 東朝を定年退社、執筆・研究活動に専念
- 1948年 逝去

◇言説の特徴：徳富蘇峰・吉野作造との比較を中心に

- ・圧倒的な情報量  
ex. 排日移民問題への反応
- ・多面的な視座の提示  
ex. 米国政治への評価
- ・バランス感覚に優れた論理  
ex. ウィルソン主義に対する態度

◇彼の言説に対する評価

- ・判断材料を得るためには非常に有益
- ・行動の指針を求めると期待外れの場合が多い
- ・政策の唱導を控え、言論弾圧を免れた（？）姿勢をどう評価するべきか

## 今後の課題

◇当時の国際評論界のなかでの米田の位置づけ

◇当時の国際評論の実態のより精緻な解明

(参考文献)

杉山肇・伊藤信哉「米田實の対米認識」

長谷川雄一編『大正期日本のアメリカ認識』慶應義塾大学出版会，2001年。

伊藤信哉「国際問題評論家の先駆・米田實—その経歴・人物・言説—」

『政治経済史学』第393号，1999年5月。